

異才と夢見た「医×工」道開く



あつみ かずひこ
渥美 和彦さん

(東京大学名誉教授)

医学と工学が連携する医用工学の草創期に38歳の若さで教授に就任した。1984年、人工心臓を着けたヤギを当時世界最長の34日間生存させ、埋め込み型人工心臓の実現に道を開く。未来を見つめる視線を養ったのは異才たちと交友

した若き日々だ。

手塚治虫さんは北野中学（現大阪府立北野高校）の同級。「鉄腕アトム」のお茶の水博士のモデルになった。小松左京さんは旧制第三高等学校ラグビー部の後輩だ。「新婚当時は三高の同級生でシステム工学者の石井威望さんや共に人工臓器を研究した堀原一さんらを我が家に集めて談論風発していました」。妻、英子さんが振り返る。

漢方など伝統医学と西洋医学を組み合わせる「統合医療」を提唱し2000年に日本統合医療学会を設立。「西洋医学は遺伝子科学と再生医学の登場で新たな高みに近づいている。ただ、細分化で患者を全人的に診る視点を見失いがちだ」と語った。

同学会監事の久保千春・九州大学総長は「医療は治療から予防の時代へと転換し、患者自身が健康と向き合う考え方が主流となった。先生が未来に残した遺産は大きい」と話している。

2019年12月31日

没、91歳

医療」を提唱し2000年

(編集委員 木村彰)